

平成25年度 新潟市音楽部 活動報告

部長 江口 陽子

1 研究主題

聴いて 感じて 考えて 音楽を楽しむ子ども（3年次）

2 研究の概要

研究主題の『聴いて 感じて 考えて』とは、「音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断していく姿」である。また、『音楽を楽しむ子ども』とは、「思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする姿」である。

今年度は、昨年度の成果と課題を受け、目指す子どもの姿に迫るために、以下の3つの事柄に重点をおいて研究を進めた。

- (1) 指導と評価の一体化を図る。
- (2) [共通事項]の位置付けを明確にした題材構成をする。
- (3) 音楽科に即した言語活動の充実を図る。



3 研究の実際

新潟市を4つのブロックに分け、授業研究を柱としたブロック研修と全体研修の二本柱で研修を進めてきた。ブロック研修では、代表による研究授業と全会員が指導案を書き、実践する一人一授業研究を行った。

(1) 指導と評価の一体化を図った実践例（2学年）

題材名：ようすをおもいうかべよう

〔共通事項〕ア(ア)速度，強弱(イ)反復

教材曲：(歌)小ぎつね(鑑)人形のゆめと目ざめ

- 歌唱・鑑賞の活動を関連付けた題材構成
- 子どもの発言に対し、「どうしてどう思ったの。」と教師が工夫の根拠を繰り返して問うたり、グループ活動の早い段階で、強弱や速度を工夫の観点としているグループを取り上げて発表させたりしたことで、子どもたちは、自分たちの思いや意図を明確にしている姿が見られた。

(2) [共通事項]の位置付けを明確にした題材を構成した実践例（6学年）

題材名：コール&レスポンスのある私たちの音楽をつくろう

〔共通事項〕ア(ア)リズム，旋律，音の重なりや和声の響き(イ)反復，問いと答え

教材曲：(歌)こげよマイケル(鑑)Oh Happy Day, Moanin'

- 歌唱鑑賞，音楽づくりを関連付けた題材構成
- 「こげよマイケル」の合唱を通して学んだ和声の響きを生かして，鑑賞曲から旋律づくりの手掛かりを得て「問い」と「答え」のある旋律をつくった。全4時間という短い配当時間で題材構成を行ったことで，ねらいが焦点化された。タイプの違う「問い」と「答え」の仕組みをもつ二つの鑑賞曲は，子どもの旋律づくりの手掛かりとして，大変有効であった。

(3) 音楽科に即した言語活動の充実を図った実践例(2学年)

題材名：ようすを音楽で

〔共通事項〕ア(ア)速度，強弱(イ)反復

教材曲：(歌)汽車は走る(鑑)しゅっぱつ，国際急行列車

- 題材を通して，プラスチック段ボールの拡大ワークシートを活用し，グループの思いや意図，表現の工夫を書く場を設定した。グループで考えた汽車のイメージが共有化され，それを根拠に音楽の言葉を用いて，強弱や速度の工夫について話し合う姿が見られた。

4 成果と課題

指導と評価の一体化，[共通事項]の位置付け，音楽科に即した言語活動の充実に重点をおき共同で授業研究を進めることで，部員間の活発な意見交流ができた。今後は鑑賞と表現の関連が，より一層図れるような題材構成の工夫と今まで実践の少なかった伝統音楽の教材化に向けた取組を行っていきたい。